かけはしコラム

家庭と地域との心の架け橋を目指し、　　5月号

子どもとの関わり方の一助となれる言葉を発信していきます

子どもの日　～子どもは 社会の 宝 です～

5月5日は、子どもの健康や幸せを願う日ですね。

子どもの笑顔は人を幸せにします。

ある老人福祉施設での出来事…デイサービスで職員さんが様々な企画をご準備くださります。いつもと同じ行事ですが、利用者さんのニコニコ笑顔と弾む会話がありました。そこには、小さなお客さん。そうです！子どもたちがいてくれました。「ひ孫みたいやわ」「見ているだけで、ほっとするわ」すごいですね！デイサービスに招かれた子どもたちは、保育園でしていることと同じことを、普通にしているだけで、人に“元気と勇気”を届けてくれる「幸せ宅急便屋さん」をしてくれているのです。

つまり、子どもの存在そのものが尊いということです。子どもの視点に立つと、当たり前の姿をありのまま安心して示せることは、子どもにとってかけがえのない幸せです。そして、その子を見て微笑まれる利用者さんも、ご自身で心の健康度を高めていかれます。このお互いが、幸せ感に浸るとき、そこにおられるスタッフの方も「笑顔」でいらっしゃることでしょう。 子どもは、このように存在そのものが「光」になれる素晴らしい存在と思います。

新年度が始まりました大人の方も適応することに精一杯です。皆様、ご苦労様でございます。一方、子どもの世界はどうでしょう。学校や園では、新しい環境の人間関係のお試し期間もある程度落ち着いてきてきました。自分の存在や立ち位置をどこに定めるか、みんな必死で心も体も疲れました。例年の GW は、その疲れを癒すお休みですが、コロナ禍版の GW三年目いかがでしょうか・・・。コロナ禍は、多くのことを私たちに教えてくれます。コロナ禍は、私たちに平等に不安な気持ちを招きましたが、その影響の大きさは不平等です。なぜかというと、不安や心配や安全・安心感といった情緒面の癒しや整える環境そのものが違うため、その影響に格差が生じるということです。モノやお金の支給は制度で保障されましたが、こういった見えないことは、手を差し伸べにくいものです。社会において、しんどい状況の人は、よりしんどくなっていませんでしょうか？子どもは、環境の影響を一番受けやすいものです。形あるものでなく、見えにくい価値「存在肯定」について今一度、大切にしていただきたいものです。

「あなたが、そこにいてくれるだけで、うれしいんだよ！」というメッセージを子どもたちに、どうぞよろしくお願いします。

滋賀県 SSWSV（スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー）上村文子